

この電子化された添付文書をよく読んでから使用してください

体外診断用医薬品
製品番号 C78020

**2026 年 7 月改訂(第 3 版)
*2025 年 5 月作成(第 2 版)
届出番号 13E1X80150000135



プロジェクトロケット
アクセス プロゲステロンII

全般的な注意

1. 本品は体外診断用であり、それ以外の目的に使用しないでください。
2. 診断はほかの関連する検査結果や臨床症状等に基づいて総合的に判断してください。
3. 添付文書等に記載した内容以外の方法で使用した場合は、保証の対象とはなりません。
4. 本品は、Access イムノアッセイアナライザー・Access2 イムノアッセイシステム・Access2 イムノアッセイシステム PRO(以下、Access2 シリーズ)・**Dxl 9000 Access イムノアッセイアナライザー(以下、Dxl9000)用の試薬です。ご使用にあたっては、測定装置の取扱説明書をよく読んでからご使用ください。

形状・構造等(キットの構成)

1. 構成試薬

ラベル	構成試薬名	主要成分
R1	試薬バック	
R1a	固相液	抗ヒトプロゲステロンヒツジモノクローナル抗体結合磁性粒子
R1b	補助緩衝液	酢酸塩緩衝液
R1c	酵素標識液	アルカリフォスファターゼ標識プロゲステロン
R2	基質液	
	(Access2 シリーズ用) ルミジェン PPD	4-メトキシ-4-(3-フォスフェイトフェニル)スピロ[1,2-ジオキセタン-3,2'-アダマンタン] ジナトリウム塩
	** (Dx19000 用) ルミフォス PRO	クロロフェニルリン酸アクリダンニナトリウム塩

2. その他の試薬

ラベル	試薬	主要成分
R3	洗浄液	トリス緩衝生理食塩水
S0	キャリブプレート	プロゲステロンフリーヒト血清 0.0ng/mL
S1～S5		プロゲステロン(精製化合物) (約 0.40、1.0、4.0、10.0、40.0 ng/mL) キャリブプレート濃度はロットにより異なります
—	希釈液	ウシ血清アルブミン(BSA)、 プロゲステロンフリーヒト血清

使用目的

血清または血漿中のプロゲステロンの測定

測定原理

本品の測定原理は競合法を用いた化学発光酵素免疫測定法(CLEIA)です。補助緩衝液、固相液を検体に反応させた後、酵素標識液を加えると、検体中のプロゲステロンは、アルカリフォスファターゼ標識プロゲステロンと競合して、固相上の抗ヒトプロゲステロンヒツジモノクローナル抗体と結合します。固相に結合したそれらの免疫複合体を磁場で保持して未反応物を洗浄により除去した後、化学発光基質(ルミジェン PPD**又はルミフォス PRO)を加えて酵素反応を行います。化学発光基質の分解による発光量は検体中のプロゲステロン濃度と負の相関関係があるため、別途キャリブレーションを用いてあらかじめ作成したキャリブレーションカーブから、検体中のプロゲステロン濃度を算出します。

操作上の注意

1. 測定試料の性質、採取方法
 - 1) 血清又はリチウムヘパリン血漿を使用してください。
 - 2) 血液検体の取扱い、測定及び保存については次の推奨事項を遵守してください^{1,2)}。
 - ・ 静脈穿刺についての感染予防措置に従い採血してください。
 - ・ 血清検体は、直立した状態で完全に凝固させてから遠心分離してください。低温下、又は患者が抗凝固剤治療を受けている場合は、凝固が遅くなる場合があります。
 - ・ 常に検体は密栓してください。

- ・ 血清又は血漿は、可能な限り早く細胞と分離してください。
 - ・ ゲル分離剤入り採血管に血清を保存しないでください³⁾。
- 3) 検体の保存
- ・ 血清又は血漿はふた付きのチューブに分注し、直ちにふたをしっかりと閉めてください。
 - ・ 検体の安定性

試料	20～25℃(時間)	2～10℃(日)	－15℃以下(日)
血清	8	2	30
血漿(ヘパリンリチウム)	8	2	30

- ・ 検体の凍結融解は 1 回までにしてください。
 - ・ 検体の安定性に関する主張は参考文献から引用したものであり、アナライザー固有のものではありません。特定のニーズを満たすために代替の安定性基準を設定する場合、利用可能な全ての参考文献及び／又は独自の研究を使用することは個々の検査室の責任です。
- 4) 検体の調製は以下に従ってください。
 - ・ 残留するフィブリン及び細胞性物質を確実に除去してから測定してください。
 - ・ 遠心分離については採血管の製造元の指示に従ってください。
 - 5) 各検査室は、採血管及び血清分離剤の適合性を確認してください。採血管や血清分離剤には、製造元の違いやロット間差が存在する可能性があります。
 - 6) 乳び検体や溶血検体は測定に使用しないでください。
 - 7) 法令に準じた性能特定を施設にて構築していれば、代替の検体収集方法でも問題ありません。
 - 8) 検体量
検体容器と装置のデッドボリュームに加え、本品 1 測定につき必要な検体量は 35 μ L です(テスト名 PROG2)。
検体最小必要量については装置の取扱説明書及びヘルプシステムを参照してください。

2. 妨害物質・妨害薬剤
- プロゲステロン濃度が約 2 及び 20 ng/mL の血清検体に、以下の表に記載されている複数の濃度の物質を添加しました。添加済み検体は、1 台の Dxl 9000 で分析しました。値は、CLSI EP07-A3⁴に基づいて算出しました。干渉については、コントロール(干渉物質無添加)と試験検体(干渉物質添加)を測定して比較しました。下表に記載した最高の試験濃度を用いて測定した化合物に、10%を超える用量の変化として定義される有意な干渉を引き起こすものはありませんでした。

物質(内因性)	添加最高濃度
ビリルビン	40 mg/dL
ヘモグロビン	500 mg/dL
トリオレイン	500 mg/dL

3. 交差反応性
 プログステロンと類似構造を持つ物質との交差反応性の評価試験を実施しました。プロゲステロン濃度が約2及び20 ng/mLの血清検体に、以下の表に記載されている物質を添加しました。添加済み検体は、1台のDxI 9000で分析しました。値は、CLSI EP07-A3ガイドラインに基づいて計算しました。各物質の交差反応性(%)は以下の通りです。

物質	濃度	交差反応性
11-デオキシコルチコステロン	600 ng/mL	≦ 5%
11-デオキシコルチゾール	6,000 ng/mL	≦ 0.1%
17 α -ヒドロキシプロゲステロン	2,000 ng/mL	≦ 2%
20 α -Hydroxy-4-pregnen-3-one	250 ng/mL	≦ 1%
アルドステロン	1,000 ng/mL	≦ 0.1%
アンドロステジオール	4,000 ng/mL	≦ 0.1%
クロミフェン	1,000 ng/mL	≦ 0.1%
コルチコステロン	200 ng/mL	≦ 2%
コルチゾール	20,000 ng/mL	≦ 0.01%
ダナゾール	100,000 ng/mL	≦ 0.01%
DHEA-S	16,000 ng/mL	≦ 0.01%
エストラジオール	400 ng/mL	≦ 0.1%
エストロン	1,000 ng/mL	≦ 0.1%
エストリオール	1,000 ng/mL	≦ 0.1%
メドロキシプロゲステロン	5,000 ng/mL	≦ 0.1%
フェニルブタゾン	400,000 ng/mL	≦ 0.1%
プレドニゾロン	1,000 ng/mL	≦ 0.1%
プレグネノロン	5,000 ng/mL	≦ 1%
テストステロン	2,000 ng/mL	≦ 0.2%

用法・用量（操作方法）

1. 試薬の調製方法

試薬	調製法	開封後の貯法・有効期間
R1 試薬バック	調製は不要です。装置に搭載する前に、バックを泡立たないように静かに数回転倒混和させてください。測定に使用する前に2時間以上は2～10℃に冷やしてください。	開封後、2～10℃で21日間安定です。
R2 基質液	ルミジエン PPD： 調製は不要です。未開封状態で、15～30℃に18時間以上（最大14日間）放置してから使用してください。	開封後、装置に搭載した状態で最大14日間安定です。
	**ルミフォス PRO： 調製は不要です。そのまま使用してください。	開封後、装置に搭載した状態で最大4日間安定です。

2. その他の試薬の調製方法

試薬（別売）	調製法	開封後の貯法・有効期間
R3 洗浄液	調製は不要です。	開封後、15～30℃で、ラベルに記載された有効期間まで安定です。
S0～S5 キャリブレータ	調製は不要です。未開封時は上向きに立てて、-30～-15℃で保管してください。使用前に室温で融解し、穏やかに転倒混和させてください。気泡が形成されないようにしてください。	初回融解後、密栓して2～10℃で保存した場合、90日間安定です。
検体希釈液	同上	同上

箱に記載されている有効期限の方が短い場合は、そちらが優先されます。

3. 測定に必要な器具・消耗品

精度管理用コントロール
製品番号 A23909: アクセス イムノコントロール 1、2、3 など
市販の精度管理用試料をご使用ください。
（**削除）

このほかの消耗品、メンテナンスに必要な試薬及び器具等については、装置の取扱説明書を参照してください。

4. 操作方法

試料の取扱い、装置への項目設定、測定依頼、測定結果解釈については、装置の取扱説明書もしくはヘルプシステムを参照してください。

1) キャリブレーション

測定の際には、有効な検量線（キャリブレーションカーブ）が必要です。アクセス プロゲステロンⅡ キャリブレータ（別売）に同梱のキャリブレーションカード情報を装置に登録後、S0～S5を検体と同様に操作し、検量線を作成します。S0は4重、S1は3重、S2～5は2重測定です。検量線は21日間有効です。キャリブレーション理論、キャリブレータ登録・測定依頼、キャリブレーションデータ解釈などの詳細については、装置の取扱説明書及びヘルプシステムを参照してください。

2) 検体の測定

【Access2シリーズの例】
① 補助緩衝液 90 μL、検体 30 μL、固相液 50 μL を加え、一定温度で約 2.4 分間、反応させる。
② 酵素標識液 50 μL を加え、一定温度で約 12.0 分間、反応させる。
③ 洗浄後、基質液を 200 μL 加え、酵素反応させる。
④ 波長 530 nm 付近に発光極大をもつ光の発光量を測定する。
⑤ キャリブレータを同様に操作してあらかじめ作成したキャリブレーションカーブより、検体の発光量を濃度に換算する。
以上の操作は免疫発光測定装置（例 Access2 イムノアッセイシステム PRO）により自動で行われる。

3) 希釈測定

測定結果がキャリブレータの最高濃度を超えるプロゲステロン量を含有する場合、結果はその数値を上回ると表示されます（例：>40.0 ng/mL）。検体を希釈する場合は以下のように行います。
マニュアル希釈
・テスト名: PROG2
・プロゲステロン値が測定範囲上限を超える（例：>40.0 ng/mL）の場合、検体を10倍希釈（検体:希釈液を1:9で希釈）して測定します。
・希釈液には、アクセス プロゲステロンⅡ検体希釈液（製品番号 C81798）を使用します。
・システムに希釈倍数をあらかじめ入力すると、希釈換算値が自動で出力されます。希釈倍数をシステムに入力しないで測定した場合は、測定値を希釈換算してください。

** 5. 精度管理

精度管理用試料は患者試料の特質を反映し、免疫発光測定装置の性能をモニタリングするために不可欠です。検体の処理は「ランダムアクセス」形式で随時可能であるため、24時間単位内で精度管理用試料の測定を含める必要があります⁵。少なくとも2濃度の市販の精度管理用試料を使用してください。精度管理用試料の値が許容範囲に入らなかった場合は検査結果が無効である可能性があります。その検査においては、精度管理用試料が前回、許容範囲に入っていた時点に遡って、全てを再測定してください。精度管理用試料の結果値の評価については、本装置の取扱説明書あるいはヘルプシステムを参照してください。

6. 単位の変換

装置のデフォルトの単位は ng/mL です。SI 単位系である nmol/L に変更する場合は、装置の取扱説明書もしくはヘルプシステムをご参照ください。マニュアルで濃度を SI 単位系に変換する場合は ng/mL に係数 3.18 を乗じてください。

測定結果の判定法

1. 判定基準

各検査室は患者年齢も含め、それぞれの集団に応じた基準範囲を設定してください。

参考基準範囲

本品を用いて分析した結果を以下に示します。

基準群	N	中央値 (ng/mL)	90%基準範囲 (ng/mL)
成人男性	191	0.22	0.11～0.41
非妊娠女性			
卵胞期	49	0.27	0.07～1.86
排卵期	50	0.68	0.20～2.07
黄体期	50	9.54	0.18～17.78
閉経後女性	187	0.16	0.06～0.37
妊娠女性			
第一期	154	22.08	0.68～63.70
第二期	167	38.25	17.40～87.50

2. 判定上の注意

- 測定結果が検出限界 (LoD) を下回る場合は、検出限界以下として報告してください。
- 測定結果がキャリブレータ最高濃度 (S5) を超える値の場合は、その S5 の濃度以上と報告するか検体を後述の方法で希釈して測定してください。また、測定結果が測定下限値より低い場合は、測定下限値未満と報告してください。
- 抗体を用いたアッセイでは、患者検体中の異好性抗体により干渉が生じる可能性があります。動物に日常的に曝露されている患者、又は免疫グロブリン又は免疫グロブリン断片を用いた免疫療法／診断検査を受けたことがある患者では、抗体が産生されている可能性があります。例えばイムノアッセイに干渉する HAMA (ヒト抗マウス抗体) などです。さらに、HAGA (ヒト抗ヤギ抗体) など、その他の異好性抗体も患者検体中に存在することがあります^{6,7}。そのような干渉する抗体によって誤った結果が生じる可能性があります。これらの抗体が疑われる患者の結果は、慎重に評価してください。
- 患者検体中にはその他にも潜在性の干渉物質が存在し、免疫反応において誤った結果を生じる可能性があります。例としてリウマチ因子、内因性アルカリフォスファターゼ (ALP)、フィブリン、ALP に結合するタンパクなどが報告されています⁸。干渉物質のそれらのタイプの存在を疑い、注意深く患者検体の結果を評価してください。
- 測定結果は患者の総合的な臨床像、例えば諸症状、病歴、他の診断検査やその他の該当情報とともに解釈してください。

性能

【感度・正確性試験】

既知濃度の管理検体を測定する際、測定値は既知濃度の±20%以内である。

【同時再現性試験】

同一管理検体を3回同時に測定する際、測定値の変動係数 (CV 値) が8%以下である。

【測定範囲】

約 0.20～40.0 ng/mL

測定範囲上限値はキャリブレータ最大濃度 S5 の濃度値で、キャリブレータのロットにより異なります。

測定下限値は LoD です。

【測定下限】

ブランク上限 (LoB)、検出限界 (LoD)、定量限界 (LoQ)

CLSI EP17-A2 に従って求めた LoB、LoD、LoQ は以下の通りです⁹。

	設計基準 ng/mL
LoB	≤ 0.10
LoD	≤ 0.20
LoQ 検査室内 CV ≤ 20%	≤ 0.30

【相関性試験】

Access2 シリーズを用いてアクセス プロゲステロン（自社品、製品番号 33550）との相関性を検討した結果、以下に示す成績が得られました。

試料数	n = 147
相関係数	r = 0.96
回帰式	y = 0.97x - 0.08 (他法) x: アクセス プロゲステロン、 (本法) y: アクセス プロゲステロンⅡ
他法	CLEIA 法

*Access2 シリーズと DxI9000 の相関性を検討した結果、以下に示す成績が得られました。

本法使用機器／試薬	DxI 9000／当該試薬
他法使用機器／試薬	Access2 シリーズ／アクセス プロゲステロン
試料数	n = 147
相関係数	r = 0.97
回帰式	y = 0.94x - 0.07 (他法)x: アクセス プロゲステロン、 (本法)y: アクセス プロゲステロン II
他法	CLEIA 法

**Access2 シリーズを用いて血清検体と血漿検体の相関性を検討した結果、以下に示す成績が得られました。

試料数	n =42
相関係数	r =1.00
回帰式	y =1.00x - 0.001 (x: 血清、y: 血漿)

**DxI9000 を用いて血清検体と血漿検体の相関性を検討した結果、以下に示す成績が得られました。

試料数	n =41
相関係数	r =1.00
回帰式	y =1.00x + 1.01 (x: 血清、y: 血漿)

＊【較正標準物質】

本品は、ID-GC/MS 分析にトレーサビリティを有するように製造された社内標準品を用いて標準化されています。キャリブレーションはこの標準物質にトレーサビリティを有しています。

使用上又は取扱い上の注意

- 取扱い上（危険防止）の注意
 - システムでのご使用にあたっては、装置取扱説明書をよくお読みください。
 - 検体及び血液由来物質は、その由来、処置、事前の認定に関わらず、感染の可能性のあるものとして、普遍的予防策と医薬品安全性試験実施基準に従い取り扱ってください。
 - 本キャリブレーションと検体希釈液の調製に使用されたヒト由来材料は、B 型肝炎、C 型肝炎（HCV）及びヒト免疫不全ウイルス（HIV-1 と HIV-2）について陰性又は無反応性であることが試験により確認されています。感染性病原体が存在しないことを完全に保証できる試験方法は存在しないため、試薬と検体は、常に感染性疾患を媒介する可能性があるものとして取り扱います¹⁰。検査にあたっては感染の危険を避けるため、使い捨て手袋、保護衣（実験着）、保護眼鏡、マスクや顔面保護具を着用し、また口によるビベティングを行わないでください。
 - 試薬パック、キャリブレーション、検体希釈液には、保存剤としてアジ化ナトリウムが含まれています。誤って目や口に入ったり、皮膚に付着したりした場合には水で十分に洗い流すなどの応急処置を行い、必要であれば医師の手当てを受けてください。
- 使用上の注意
 - 試薬パック
 - 直立させて 2 ～ 10℃ で冷蔵保管してください。本品は凍結しないでください。凍結された試薬は使用できません。
 - 開封（穿刺）後の試薬パックを転倒混和しないでください。
 - 試薬を注ぎ足して使用しないでください。
 - 開封後の本品を別の装置に搭載しないでください。
 - 有効期限を過ぎた試薬は使用しないでください。
 - 試薬パックのエラストマーの破損、又は精度管理用試料の測定値が許容範囲外になった場合などには試薬劣化の可能性があります。
 - 試薬パックが破損している（エラストマーが破れているなど）場合、パックを廃棄してください。
 - 基質液：ルミジェン PPD
本品は Access2 シリーズです。
空気酸化の影響を受けやすいので、ふたをしっかりと閉め、ボトルの差し替えは避けてください。
基質液のバックグラウンド測定値（RLU）の増加は、劣化を示している場合があります。
 - 基質液：ルミフォス PRO
 - 本品は DxI 9000 専用基質液です。
 - 光源から保護してください。
 - 空気酸化の影響を受けやすいので、ふたをしっかりと閉め、ボトルの差し替えや継ぎ足しはしないでください。
 - 基質液のバックグラウンド測定値（RLU）の増加は、劣化を示している場合があります。
 - キャリブレーション
 - アクセス プロゲステロン II キャリブレーションの測定量（分析物）は、Joint Committee for Traceability in Laboratory Medicine（JCTLM）に登録された同位体希釈ガスクロマトグラフ質量分析（ID/GC-MS）参照測定手順にトレーサビリティが確保されています¹¹。トレーサビリティプロセスは、EN ISO 17511 に基づきます。

- 割り当てられる数値は、キャリブレーションのこのロットの代表的な検体を使用して確立されたもので、かつアクセス試薬のアッセイ方法に固有のものです。他の測定法による表示値とは異なる場合があります。そのような差異がある場合、それは測定方法の相違等に起因すると考えられます。
- 本キャリブレーションは、ゼロならびに約 0.40、1.0、4.0、10.0、40.0 ng/mL の 6 濃度で提供されています。各キャリブレーションの正確な濃度値は、キャリブレーションカードを参照してください。
- 精度管理用試料の測定値が許容範囲外になった場合には劣化の可能性があります。
- 微生物汚染又は過度の混濁が見られる場合は、キャリブレーションを廃棄してください。
- システム上、測定範囲上限値はキャリブレーション最大濃度値となります。
- 検体希釈液
 - 本アッセイのキャリブレーション S5 よりも濃度の高いプロゲステロンを含む検体を希釈するために使用することを想定しています。
 - 微生物汚染又は過度の混濁が見られる場合は、バックを廃棄してください。
- 精度管理用コントロール
コントロールの取扱説明書に従って使用してください。
- 廃棄上の注意
 - 試薬及び器具等を廃棄する場合には、廃棄物の規定に従って処理してください。
 - 本品には、アジ化ナトリウムが含まれています。アジ化ナトリウムは鉛管、銅管と反応して爆発性の高い金属アジドを生成することがあるので、廃棄の際は大量の水と共に洗い流してください。
 - 検体中には感染性物質が存在することがあるため、廃液、使用済み器具等は、次亜塩素酸ナトリウム（有効塩素濃度 1,000 ppm）で、1 時間以上浸漬、又は 2%グルタールアルデヒド溶液で 1 時間以上浸漬するなどの消毒処理、あるいはオートクレーブ（121℃、20 分以上）による滅菌処理を行ってください。

貯蔵方法、有効期間

試薬	製品名	貯法	有効期間
R1 試薬パック	アクセス プロゲステロン II 試薬パック	2 ～ 10℃	12 箇月
R2 基質液（別売）	アクセス 基質液	2 ～ 8℃	12 箇月
	**DxI Lumi-Phos PRO 基質液（ルミフォス PRO）	2 ～ 8℃	12 箇月

（有効期限：外装に記載してあります。）

包装単位

【Access2 シリーズ】

試薬	製品番号	製品名	包装
R1 試薬パック	C78020	アクセス プロゲステロン II 試薬パック	50 テスト × 2
R2 基質液（別売）	81906	アクセス 基質液（ルミジェン PPD）	130 mL × 4
R3 洗浄液（別売）	A16792	Access 用洗浄緩衝液 II	1,950 mL × 4
	A16793	DxI 用洗浄緩衝液 II	10 L × 1
S0 ～ S5 キャリブレーション（別売）	C78021	アクセス プロゲステロン II キャリブレーション	S0 ～ S5 2.5 mL × 1
検体希釈液（別売）	C81798	アクセス プロゲステロン II 検体希釈液	4 mL × 1

**【DxI9000】

試薬	製品番号	製品名	包装
R1 試薬パック	C78020	アクセス プロゲステロン II 試薬パック	50 テスト × 2
R2 基質液（別売）	B96000	DxI Lumi-Phos PRO 基質液（ルミフォス PRO）	135 mL × 4
R3 洗浄液（別売）	A16793	DxI 用洗浄緩衝液 II	10 L × 1
S0 ～ S5 キャリブレーション（別売）	C78021	アクセス プロゲステロン II キャリブレーション	S0 ～ S5 2.5 mL × 1
検体希釈液（別売）	C81798	アクセス プロゲステロン II 検体希釈液	4 mL × 1

主要文献

1. Approved Guideline - Procedures for the Handling and Processing of Blood Specimens for Common Laboratory Tests, GP44-A4. May 2010. Clinical and Laboratory Standards Institute.
2. Approved Guideline - Collection of Diagnostic Venous Blood Specimens, GP41, 7th Edition, April 2017. Clinical and Laboratory Standards Institute.
3. Wild D. The Immunoassay Handbook 1994; 249-250.
4. Approved Guideline – Interference Testing in Clinical Chemistry, EP07, 3rd Edition. April 2018. Clinical and Laboratory Standards Institute.
5. Cembrowski GS, Carey RN. Laboratory quality management: QC ⇌ QA. ASCP Press, Chicago, IL, 1989.
6. Kricka L. Interferences in immunoassays - still a threat. Clin Chem 2000; 46: 1037-1038.
7. Bjerner J, et al. Immunometric assay interference: incidence and prevention. Clin Chem 2002; 48: 613 - 621.
8. Lingwood D, Ballantyne JS., Alkaline phosphatase-immunoglobulin conjugate binds to lipids in vitro, independent of antibody selectivity. Journal of Immunological Methods 2006; 311: 174-177.
9. Approved Guideline – Evaluation of Detection Capability for Clinical Laboratory Measurement Procedures, EP17-A2. June 2012. Clinical and Laboratory Standards Institute.
10. Biosafety in Microbiological and Biomedical Laboratories. HHS Publication, 6th ed., June 2020.
11. Thienpont, et al. Development, Validation, and Certification By Isotope Dilution Gas Chromatography-Mass Spectrometry of Lyophilized Human Serum Reference Materials for Cortisol (CRM 192 and 193) and Progesterone (CRM 347 and 348), Clinical Chemistry, Volume 37, Issue 4, 1 April 1991, Pages 540–546.

2025 FEB D09461 C

問い合わせ先

ベックマン・コールター株式会社 お客様サポートセンター

〒135-0063 東京都江東区有明三丁目 5 番 7 号 TOC 有明ウエストタワー

TEL:0120-566-730

製造販売業者の氏名又は名称及び住所

ベックマン・コールター株式会社

〒135-0063 東京都江東区有明三丁目 5 番 7 号 TOC 有明ウエストタワー